

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務の対応に追われ、意識が持てていないこともあるが、常に理念を念頭において、ケアが行えるように努めている。	地域密着型サービスとしての理念があり、玄関・スタッフルームに掲示し毎朝唱和している。入居者の重度化に伴い、業務に追われがちで理念から外れそうなることを管理者は意識し、理念の共有と実践に向けて職員と話し合われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の会議の場に提供したり、子供会と共同で秋祭りを開催するなど、少ないながらも地域に貢献できるようにしている。	自治会に加入し、普段から自治会へ会場提供したり、各サークルへの会場も提供している。行事も子供会・祭りなど、地域と活発に交流している。地域の方と笑顔での交流に努め、地域の安心の場となれるよう日々努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての、より具体的な認知症や事業所の説明・勉強会を検討中。 火災等の緊急事態における利用者様の対応訓練を昨年から行い、認知症の方が混乱して徘徊するので確保して頂きたいと言う事で理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数の月に継続的に運営推進会議は行っている。 報告事項が多いので、活発な意見が出るように事前に協議事項や内容を詳細に伝えて意見が出せるようにしていきたい。	定期的に開催され、グループホーム職員、家族代表、地域代表、市職員、包括支援センター職員で構成されている。活動報告をする中でボランティアの提案を頂くなど、サービス向上につながる話し合いの場になってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的には運営推進会議のメンバーに市役所の方もおられる。 不定期ながらも、施設長以下が月1回は長寿社会課に出向いている。	施設長は市の介護保険の審議員の役を担い、職員を含め、月1回は市の長寿社会課に行き、連携・協力体制がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」に該当しないものの施錠や離床マットが拘束になることは認識している。 ただし転倒等のリスクを考慮した上であるを理解して対応している。	センサーマットを使用している方もおられるが危険回避のためであり、行動の抑制にならないよう全職員共通して意識している。建物の構造上施錠する所もあるが、これも安全確保のためという意識があり、外に出たい方の希望があれば素早く対応し、職員が付き添い出しておられる。リスク委員会や職員会議で話し合いも行われ、部分的な開放への取り組みや外出支援を充実させる取り組み等検討されている。	外部研修や他事業所からの学び等を活かして、全職員で常に意識して創意工夫を重ね、玄関の開放に向けての更なる取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての学習はしっかりと取り組みが行えていないが、理念に基づいて日々虐待が行われないよう、各職員が注意を払いケアは行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年末に行政書士の方に来て頂き成年後見制度を中心に勉強会を開催した。現状事例はないが、該当者が出来れば速やかに対応するように取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	引き続いて、管理者は利用契約時に、重要事項説明書兼契約書において、内容を復唱して契約者に説明を行い、その時点で不明な点を確認をしっかりと行っており、特に大きな問題に至っていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟の入口に意見箱を設けているが、なかなか投書される事がなく、具体的なアンケートで意見が表わされるよう検討している。利用者の方からの要望があれば、その発言をカルテに記入するように努め内容により、代表者以下で改善するように努めている。	面会時に直接要望を言われる事が多い。意見箱への投函はないので、家族アンケートの実施を予定し、そこから意見が出てくるような方法を検討している。入居者からは外出の要望が多く、外食や遠足・ドライブ等素早く検討し対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回は職員会議を開催、また朝礼や休憩などで相談や意見を聴く機会が設けてあり比較的意見がしやすい環境がある。やや実践に移すのに時間がかかっている。	月2回の職員会だけではなく、日々の朝礼などでの意見を出しやすい場面が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間を過ぎてしまったり、休日での会議出勤があるので、休みのあいまいさがある。また夜勤の負担が多く、改善出来るように検討していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	継続して法人内研修は行っているがもう少し踏み込んだり、見直しができるような研修体制にして欲しいと思う。法人外研修も、実践的な物に関してだが、経験等を見極めて参加をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との交流を考えているが、現実的にまだ出来ていない為、今後も継続して見学や交流が持てるように、調整を図っていききたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーや管理者が入所前に心身状況や不安・困っていることを傾聴して、入所出来るかを検討している。 入所後は1週間状態を詳細に記録し、スタッフも積極的にコミュニケーションを取り様々な視点から安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が入所前の面談時点で家族が困っていることを伺い、入所後は担当職員を中心に入所当日や以後の面会で顔を合わせ、必要な連絡を行い要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者及びその家族に対しては管理者等が入所前面談において身体面や経済面等の現状をしっかりと聴取してどのサービスが必要か判断して、入居判断を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームなので一つの家族としての視点を持って、対等な関係を築き、自尊心を考慮して出来る事は行って、一緒に生活するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生月には参加の依頼や広報紙を通して状況を伝えたり、緊急性が必要な場合は連絡をしてケアの方向を対応するなどして、相談を適宜行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方は好きなときに連絡が取れたり馴染みの場所へ行けるような支援を行っているが、家族の意向もあって出来ていないことが多い。 もう少しなじみの場所を把握して支援できるように検討を行っている。	友人の面会がある方もある。又、墓参りの支援も実施しているが、まだ一部の方は馴染みの場所を把握できず支援が実施できていないと考えている。センター方式を活用し、馴染みの人や場所の把握に取り組んでいるところである。	ホームに入居してもその人らしく暮らし続けるためには、今までの生活歴や関わってこられた人や場所はとても大切です。家族や関係者の協力を得ながら引き続き支援の検討が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握できており、スタッフが間に入って、交流がとれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	少なくともケアマネージャーや管理者は病院や施設に向いて、様子を伺い、治療の完治などで次の施設あるいは、当施設に戻ってもらうように必要な対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを伺いながら、対応している部分もあるが、ドライブを基本とした外出になることが多い。	居室で1対1でお話を聴く等、思いを聴く努力を職員の方がしておられる。又、思いが伝えられない方に対しても、ご本人本位に検討できている。記録に残し共有にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前あるいは入所直後に、利用者の方の生活状況や嗜好等の把握をする為の書類を記入して頂き、環境が変わっても継続した生活が出来るよう把握に努め、生活に慣れての変わる事に関しての振り返りや早急な対応をする為の資料として生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士での話し合いで終わってしまう事もあるが、内容や緊急性が強いものは、居担を中心に主任に報告しながら、管理者へケア変更等の相談につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なかなか話をもつ機会が少なかった為、ケア改善提案書を作り、朝礼の中で相談をする方向を作り、緊急性は追加したり、その時により一新したりと少しはスタッフが関わるよう話し合いをしている	「ケア改善提案書」という書式を作成され、見直しから実践へ素早く対応する努力をされている。ケアプランに沿ったケアの提供・記録に努め、チームとして意見を出し合い、現状に即したケアプランの見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	継続して個別の記録を行い、特変があれば詳細に記入する事にしており、その内容に応じて複数回あるいは身体面での緊急性があれば、プラン変更するようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在該当する事例はないものの、専門的なりハビリが必要だと思われるような方があれば、家族に必要性を伝えて、よりよい方向に進むような対応は整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の都合で、以前より回数が減っているが、現在は生け花や俳句等のボランティアの受け入れを検討。秋祭りの自治会の子供会だけではなく近くの保育所との交流も行いたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は提携医院での受診をしているが、家族の方及び利用者の方が希望されて現在も、今までのかかりつけ医にて定期受診をしている。また入所前には専門性が必要な科目では継続して家族の方をお願いをして受診している。	提携医療機関以外の受診はご家族にしているが、その際は情報提供書を渡し、状態を共有し連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	腹部確認など専門的な対応をして頂くのに、施設常勤看護師に確認してもらい、入浴等での皮膚状態の確認、発熱等、体調変化がある場合は、適宜相談して、必要に応じて速やかに受診が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は各施設ともサマリー等で情報を共有し期間中も利用者様の面会時に、看護師さんに現状を伺い早期に退院あるいは今後の方針等を確認する様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所して以来ターミナルケアを行う事例あるいはそのような身体状況の方がおられず、まだきちんとした話し合いが持っていない。	施設としては看取りを行う方針ではあるが、現状では運営体制としてまだ準備段階である。今後、ターミナルを受けることになると方針、スタッフへの研修、協力医との話し合いも必要となる。	まずは、どのような最期を迎えたいか本人・ご家族の思いの聴取、共に暮らしを支える者として職員の死生観に対する勉強会等を始められ、具体的な方針・体制の検討に向かわれてはどうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の他、2年に1回は救急救命法を消防職員の指導の者に研修を行っている。またそれ以外の急変時(意識消失など)が発生した場合は看護師に指示をおおぎ、必要対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は火災時の避難訓練を行っており、避難した利用者の方を地域の方が見守りするような対応を行っており、今年度内は地震対策を行うように計画している。	年2回の防災訓練に地域の方も参加してもらい、「覚え書き」も交わり、協力体制を整えている。今後は協力体制の明確化と地震・水害対策の計画や備蓄の再検討も予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務やリスクを優先して考えてしまい出来ないこともあるが、出来る限り一呼吸おいて個人を尊重した対応を心がけている。	忙しい場面では特にプライバシーの配慮に欠けてしまいがちだと考え、一呼吸おいてまずは傍に寄り添うことを職員は心掛けている。入浴や排せつ介助時、希望者には同性介護を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか希望を引き出さなかったり、その内容が難しい事もあるが、他者を交えての会話で引き出したり、テレビ等の話題からさらに掘り下げて聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の提供時間は、業務の流れとして大方決まった時間で対応しているが、その日の体調などを考慮して、食事の時間をずらしたり、希望で入浴を1番にするなどの対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なかなか自己決定することが出来ていないが、入浴の更衣で準備する時あるいは就寝時の更衣でどれがよいかを出来る限り聞くように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実際の摂取状態を見て、好き嫌いを伺ったり家族の方にも伺い、検食簿にリクエストする形で記録を行い、分かっている物に関しては、提供量を調節して行っている。準備や片付けは、適宜出来る方に依頼を行いながら楽しんで、準備等を行っている。	日頃から職員が同席し摂取状況を細やかに観察し、検食簿も活用しながらメニューに反映している。準備や後片づけもその方にあつた方法で支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日や当日の食事・水分量を確認して、食事が楽しめるようにしており温かい・冷たいを確認して提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	時間をおいてからでも、継続して毎食後必ず、口腔ケアの声かけを行い、残菜が多い方や磨き残しが多い、口腔状態が悪い方などは電動歯ブラシを使いチェック。夜は義歯洗浄剤に漬け置きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の対応時間がまちまちで、失敗している事があるので、必要に応じて適宜チェックしたり、仕草などで察知しているので失敗はすくなくなってきた。	他の業務や介護に追われてしまうと、トイレの誘導が遅れてしまいがちだということを職員が意識し、「行きたいサイン」を見逃さないように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなど食事面や運動を働きかけて行っているも、食事摂取状態等なかなか出ない事があり、それによる不穏や腸の疾患もあるので必要最低限であるが、薬で調節をさせてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本として、1番最初に入浴されたという希望のある方は対応している。時間に関して一度どちらがよいか伺った事があるが、ほとんどの人が日中で良いという事で現状は日中に行っている。	入浴時間は希望を聞き、希望に添えるように対応している。入浴拒否の方に対しては信頼関係の構築に努め、根気強く対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声掛けが必要な方もいるが、時間に関係なく利用者の方の自由で休みたい時に休んで頂いている。夜に安眠が難しい方は、出来る限る日中に活動や外気浴を行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最低限担当利用者の身体状況は把握している。変更があった場合は、把握できるようにメモをしたり、忘れていた事もあるので都度薬剤情報で調べられる様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の身体能力や生活歴を把握した上で必要あるいは得意とする日課活動を依頼して、利用者の方が協力しあい、日々の活動に力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や遠足などの遠方に出るのは計画的かつ職員配置を充実していく必要があるが、日々の支援が業務に流れてしまっているので、うまく行えていないように感じる。	計画的な外出(遠足、外食)は出来ている。日々の買い物等の計画も立て、実施に向けて努力している。	日常的な外出支援やその時の思いに沿った柔軟な外出ができるよう、職員の意識付けや体制の検討が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは持たせたい気持ちがあるが紛失やトラブルの原因になるため現状は管理が出来る方のみ持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば都度対応している。ハガキのやり取りはまずは家族から書いて頂き、それに変身する形をとるように検討を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感が感じられる写真や作品をはるように心掛け、その時々でゆったりとできる環境を整えていくように努めている。	日当たりの良いホールで、日除けのゴーヤカーテンをされたりと、季節を感じて頂ける配慮がされている。また清掃が行き届き、清潔・安全な環境に努めておられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にあるベンチを利用して、気のあった方々と談笑したりして自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	主に昔のものや家族(特に孫様)の写真をもってこられ、壁に張るなどをして、居心地良く暮らせるようにしている。	テレビ、ダンス、こたつなど、馴染みの物をご家族に持って来て頂き、落ち着いて心地良く暮らせる雰囲気作りに努めておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	貼紙などをして、利用者の方が把握できるように自立に向けた支援を行なっている。		